

教科	国語		科目	現代文A	単位数	3
学年	3年		類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	高等学校 改訂版 新編現代文A (第一学習社)					
副教材(出版社)	新編現代文A学習課題集 (第一学習社)					
授業の概要	読むことを中心に教材の理解を深め、基礎的な知識を身に付けるとともに、グループ学習などを通して多様な思考に触れ、主体的な考察を行い、自身の思考を表現したり発表したりする。					
授業の目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学期	1 言語と文化 ・犬も歩けば棒に当たる 2 小説を読む(一) ・調律師のるみ子さん 3 新しい発見 ・なぜ“コロンブスの卵”を描くのか 小説を読む(三) ・鼻		・文章の流れをつかみ、基礎的な読解方法を身に付ける。 ・小説読解の基本を確認し、短編小説の世界を鑑賞する。 ・筆者の主張・考えを適切に読み取る。 ・歴史に材を採った小説が現代的な問題を主題化することを理解する。		
	2 学期	1 詩を味わう ・永訣の朝 2 小説を読む(六) ・山月記 3 人間と文化 ・花女房 4 小説を読む(一) ・デューク 5 小説を読む(四) ・卒業		・表現上の特色について理解する。 ・漢文的な表現が醸し出す独特の雰囲気や、その表現のおもしろさを味わう。 ・「人間」とは何かということについて考えを深める。 ・論の展開に即して文章を正確に読解できるようにする。 ・「生死」を扱った文章に触れ、他人の気持ちに寄り添ったり想像したりする。 ・「働くこと」や「他者との関わり」から、自己を見つめ直す契機とする。		
	3 学期	1 人間と社会 ・支え合うことの意味		・「支え合い」がなぜ各人の存在にとって必須の条件となるのか、自らの経験と照らし合わせて考える。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	文章を読む楽しさを味わい、文章に親しむとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしているか。			近代以降の文章を読み、文章に表れた思想や感情を読み取り、自分の考えを深め、発展させているか。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けているか。	
備考	3つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教科	地理歴史		科目	地理 A	単位数	2
学年	3 年		類型	情報ビジネス科・地域ビジネス科		
教科書（出版社）	高等学校新地理 A(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)					
副教材（出版社）	地理ワークブック（愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会 地理部門）					
授業の概要	教科書と副教材をもとに授業を理解する。地名は地図帳で確認し、空間的な認識を深めるとともに、グラフや図表などの資料の活用力を磨く。またワークブックでの作業を通じて、地理的技能を身に付ける。					
授業の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
年間 学 習 計 画	学習内容（単元・項目）			学習目標		
	1 学 期	1 地上の現象と地球上の位置 2 グローバル化が進む世界 3 人間生活を取り巻く環境 (1) 人々の生活と国境		・地球儀と世界地図の比較、略地図の描図などを通して、地球表面の大陸と海洋の形状や各国の位置関係、方位、時差および日本の位置と領域などについてとらえる。 ・交通・通信の発達、人や物の国際間の移動などに関する資料の収集、分析などを通して、諸地域間の相対的な位置、距離関係が変化し、人々の地理的視野が拡大するとともに国家間の結合や国際貿易などが活発化、複雑化していることをとらえる。		
	2 学 期	(2) 人々の生活と気候 (3) 人々の生活と産業・文化 4 世界の諸地域の生活・文化 (1) 産業の発達と変化		・世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けて追究し、生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身に付けるとともに、異文化を理解し尊重することが必要であることについて考察する。		
	3 学 期	5 地球的課題と私たち		・環境、資源エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野から追究し、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解し、それらの課題の解決に当たっては各国の取り組みとともに国際協力が必要であることについて考察する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		資料活用 の技能	
	地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究しつつ、国際社会の一員としてその責任を果たそうとしている。		地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。		地図や統計、画像などの資料から情報を選択・活用して地理的事象を追究する技能を身に付け、考察した過程や結果を適切に表現する。	
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）	高等学校 改訂版 政治・経済（第一学習社）				
副教材（出版社）					
授業の概要	教科書に沿って、本文の内容を理解し、議論する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会の諸課題を深く学ぶ。				
授業の目標	多角的な視点から現代社会の諸問題についてより深く理解を深め、人間としてのあり方生き方について主体的かつ公正に判断、考察する力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1 学期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第2章 現代の国際政治と日本	民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。民主主義のあり方について理解するとともに、現代政治の特質について把握する。望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。		
	2 学期	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第2章 国民経済と国際経済	経済の基本的な概念や経済理論を学習することによって、現代経済の特質について考える。家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのかを理解させる。国際経済に関する基本的な概念や理論を理解しながら、国際経済における日本が果たすべき役割について考察する。		
	3 学期	第3編 現代社会の諸課題	現代の日本が抱える課題を、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな視点から考え、望ましい解決のあり方を考える。それぞれの課題には、さまざまな角度からの対応策があることを把握しながら、幅広い視点から考察することを身に付ける。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につける。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	数 学	科目	数学探究	単位数	2
学年	3 年	類型	情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	数学探究テキスト(松山商業高等学校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	数と式、整数の性質、2次関数、図形と計量、場合の数と確率、データの分析で、1・2年生の全復習から応用まで学習する。				
授業の目標	1・2年次に既習した内容について総復習をするとともに、基礎的な知識や技能を身に付ける。また、それらを的確に応用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	1章 1節 数と式 2節 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・整式についての加法、減法、乗法の計算及び展開公式・因数分解公式を自在に使いこなせるようになる。不等式の性質を理解すると共に、1次不等式・2次不等式の解き方を修得する。 ・最大公約数、最小公倍数の性質から互除法の使い方を復習する。さらに、不定方程式の解を見つけられるようにする。n進数の性質を復習し、応用問題にチャレンジする。 		
	2 学 期	2章 2次関数 3章 図形の計量と図形の性質 1節 三角比 4章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフを式変形し、2次関数の最大・最小を理解し、具体的な問題に応用できるようになる。2次関数のグラフと2次方程式の関係を理解し、2次方程式の解を求める様々な方法についての技能を修得すると共に、2次不等式を解けるようになる。 ・座標を用いた鈍角の三角比の求め方を理解する。一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式と、正弦定理、余弦定理を理解し、活用できるようになる。 ・確率の基本定理を理解し、応用できるようになる。特に具体例を通して、条件つき確率と独立試行の定理の考え方を理解する。 		
	3 学 期	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 2節 データの相関	<ul style="list-style-type: none"> ・データを整理する必要性を理解し、度数分布表、ヒストグラム、相対度数、箱ひげ図、相関係数を知る。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	
	関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できるか。	事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決できるか。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。	
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編 地学基礎(数研出版)				
副教材(出版社)	改訂版リト ^α Light ノート地学基礎(数研出版)、三訂版リト ^α 地学基礎(数研出版)				
授業の概要	地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたこと、宇宙と惑星としての地球の特徴、地球環境と人間生活とのかかわりについて学習する。				
授業の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	序編 惑星としての地球 第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震と地殻変動 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形・大きさの測定の仕方や構造などについて、スケールも含めて理解する。 プレートの運動について学び、火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることを理解する。 地震の性質と地殻変動について理解を深める。 火山活動と、その結果として形成される岩石について学ぶ。 太陽エネルギーと重力がどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。 地球と生命の関係の理解を深める。 		
	2 学期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動 第4編 地球の環境 第1章 地球環境の科学 第2章 日本の自然環境 第5編 宇宙の構成 第1章 太陽と恒星 探求活動	<ul style="list-style-type: none"> 大気圏の構造と、地球の熱収支について理解する。 海洋も大気の運動と同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 時間スケールの大きな現象を考える場合は、全地球的にとらえることが必要であることを理解する。 日本の自然環境の特徴と、そこで起こる災害を理解する。 太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。 		
画	3 学期	第2章 宇宙のすがた	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の天体に関して、系統的に学習し、理解を深める。 ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	・身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。	・簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。	・実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 ・実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	・学習内容について理解を深めることができる。 ・観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)				
副教材(出版社)	ニューサポート新編化学基礎 (東京書籍)				
授業の概要	化学が物質を対象とする科学であることを理解し、実験・観察を行うことで、化学が人間生活に果たしている役割について学習する。				
授業の目標	日常生活や社会との関連を図りながら科学への関心を高め、目的意識をもって実験・観察を行い、身のまわりにある化学に興味・関心をもたせるとともに、元素記号や周期表、化学の基本的な法則や概念を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	序編 化学と人間生活 1編 物質の成り立ち 1章 物質の探究 2章 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> 物質と人間生活の関連、歴史について理解する。 生活のいろいろな場面で化学の知識が必要であることを理解する。 物質の構成粒子としての原子の構造について理解する。 試薬を安全に扱う方法や、基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。 周期律と周期表の構成について、族や周期の意味を理解する。 		
	2 学 期	3章 物質と化学結合 2編 物質の変化 1章 物質と化学変化 2章 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> イオン結合や金属結合、共有結合などの化学結合の仕組みについて理解する。 有効数字について理解する。 物質の考え方と化学反応式の書き方について理解する。 化学反応式の示す量的な関係について理解する。 酸と塩基の定義や性質を理解する。 中和滴定の実験を通して、指示薬や実験器具の名称と使用法を習得する。 		
	3 学 期	3章 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> 金属のイオン化傾向について理解し、いろいろな金属の反応性について考察する。 電池のしくみについて理解し、身のまわりの酸化還元反応について化学的に考察する。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	実験・観察の技能	知識・理解	
	・自然の現象について興味と関心を持ち、積極的な態度で授業、実験に取り組むことができる。	・授業内容について科学的な捉え方ができている。 ・授業内容と社会や生活との関連を考えることができる。	・実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 ・実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	・学習内容について理解を深めることができる。 ・基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	保健体育		科目	体 育		単位数	3	
学年	3 年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科				
教科書(出版社)	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)							
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)							
授業の概要	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る運動を実践します。							
授業の目標	<p>1 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる能力や態度を育成します。</p> <p>2 集団行動を正しく理解し、秩序正しく能率的に行う能力を養い、スポーツにおいて安全と運動効率の向上を目的とし、自己管理を積極的に行う資質を育成します。</p>							
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)			学 習 目 標				
	1 学 期	<p>1 体づくり運動</p> <p>(1) 体ほぐしの運動</p> <p>ア 集団行動(応用動作)</p> <p>イ ストレッチング</p> <p>(2) 体力を高める運動</p> <p>ア 時間走</p> <p>イ 持久走(スポーツテスト)</p> <p>2 球技選択Ⅰ</p> <p>(1) テニス</p> <p>(2) バドミントン</p> <p>(3) 卓球</p> <p>3 体育理論Ⅶ</p>		<p>・自主的な集団行動の定着と日々の活動の中での応用を目指します。</p> <p>・主運動を行う前の、正確な準備運動やストレッチを学びます。</p> <p>・自分の体力の実態を知るため、体力テストを行います。</p> <p>・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かします。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計について学びます。</p>				
	2 学 期	<p>4 球技選択Ⅱ</p> <p>(1) ソフトボール</p> <p>(2) バレーボール</p> <p>(3) ハンドボール</p> <p>5 球技選択Ⅲ</p> <p>(1) サッカー</p> <p>(2) ハンドボール</p> <p>(3) バスケットボール</p> <p>(4) 卓球</p> <p>6 体育理論Ⅷ</p>		<p>・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かします。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計について学びます。</p>				
	3 学 期	7 球技選択Ⅲの続き		<p>・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かします。</p>				
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能		知識・理解	
	<p>・運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。</p> <p>・公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。</p>		<p>・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。</p> <p>・課題解決を目指し、工夫している。</p>		<p>・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する事項を理解し、身に付けている。</p>		<p>・自己体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。</p>	
備 考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。							

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語 III	単位数	5
学年	3年	類型	情報ビジネス科 A 類型		
教科書 (出版社)	Revised BIG DIPPER English Communication III (数研出版)				
副教材 (出版社)	beam 1 New Edition 英文法・語法問題 (第一学習社)				
授業の概要	1 単語やイディオムの意味を辞書で調べて内容の概要を把握しておく。 2 予習の段階で分からなかった箇所の説明を聞いてノートを取るとともに、ペアワークやグループワークなどを通して自己表現を行う。				
授業の目標	1 様々なジャンルの題材に触れながら、語彙力・表現力を高める。 2 客観問題と記述問題の双方を解くことで入試に必要な読解力を身に付けて、要約文やディスカッションへとつながる表現力を育てる。				
年 間 学 習 計 画	学習内容 (単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	Lesson 1 The History of Ekiben Lesson 2 Three Tips for Maintaining a Conversation Lesson 3 Do You Judge People by Their Blood Types? Lesson 4 My Opinion of Zoos Lesson 5 The 55-Year Race Lesson 6 After the Flowers Lesson 7 Online Word-of-Mouth Lesson 8 Kintsugi Lesson 9 Alfred Nobel: A Person of Peace Lesson 10 Art on Display Lesson 11 Keys to Winning Lesson 12 She Sells Seashells by the Seashore	・ウェブサイト、旅行ガイド、パンフレット、新聞など様々な題材に触れ、必要な情報を的確につかみ、文法語法を定着させながら、実生活に生かした自己表現活動につなげる。 ・学習のポイントは、言い換え表現、時間的順序、対比表現、因果関係を表す表現、追加・列挙、スキミング、譲歩などの英文読解に必要なスキルの習得である。適度に短めな英文を音読・暗唱して読解力向上を目指す。		
	2 学 期	Lesson 13 A New Orchestra and a New Harmony Lesson 14 Swimwear for Speed Lesson 15 The Immortal Jellyfish Lesson 16 Antarctica by Cruise Ship Lesson 17 The Shoe That Grows Lesson 18 Let's Try English Presentations! Lesson 19 Bottled Water? No Water? Lesson 20 Endangered Languages Lesson 21 Left in Space Lesson 22 ハリエット・タブマンの伝記	・エッセイ、説明文、伝記など心理など代表的なジャンルの題材を通して必要な情報を読み取ったり、環境・自然、文化・国際理解コミュニケーション・情報社会に関連する語句を確認する。また、その情報をもとに適切な表現活動を行う。 ・学習のポイントは、強調構文、使役構文、否定表現 分詞構文、不定詞などを身に付け、語彙力や表現力を高めることである。		
	3 学 期	Lesson 23 ミツバチの大量死の原因 Lesson 24 人はどれくらい嘘をつくのか Lesson 25 顔認証システム	・長めの文章を読んで読解力向上を目指す。また客観問題と記述問題を組み合わせ、入試に必要な力を育てる。 ・学習のポイントは、要約文、ディスカッション、など将来役立つスキルを身に付けることである。		
観 点 別 評 価	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
	本文を読んだ後に、感想や意見を発表しようしたり、発表をしっかりと聞いたりする。また本文内容に関する質問に積極的に答えようとする。	本文に関連する自分の経験や、本文への意見をクラスメイトに説明することができる。パラグラフごとに本文の内容を要約することができる。	聞いたり読んだりした英語の題材について概要や要点をとらえることができる。また、そのために必要な語句や表現、文法事項などの知識を活用することができる。	英語の音声的な特徴や英語を使用している人々の文化的背景について理解している。また、語句や表現、文法事項などの知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基き、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	家庭総合 ～自立・共生・創造～ (東京書籍)				
副教材(出版社)	2021年度 家庭科ノート、令和3年度 調理実習ノート基礎編 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)				
授業の概要	(1) 生活の科学と環境(住生活) (2) 生活の科学と環境(食生活) (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の3項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら学習する。				
授業の目標	1 住生活・食生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を身に付ける。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第8章 住生活をつくる (1) 住生活について考える (2) 住生活の計画と選択 (3) 住生活の文化 (4) これからの住生活 第6章 食生活をつくる (3) 食生活の安全と衛生 (5) 調理の基本 ◎ 調理実習 ○ ホームプロジェクトについて	・住居の機能を考え、平面図の基礎知識を得て、間取りを理解し、ライフステージにあった住居を考える。 ・住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学び、バリアフリーの考え方を理解し、身に付ける。 ・気候風土に応じた様々な住居、地域社会との繋がりを理解し、持続可能な住生活とは何かを考える。 ・食品の選択保存や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・日常の食生活を振り返り、食生活の変化や問題点を知る。 ・食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2 学期	(1) 食生活について考える (2) 食事と栄養・食品 (4) 生涯の健康を見通した食事計画 (6) 食生活と文化 ◎ 調理実習	・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようになる。		
	3 学期	第6章 食生活をつくる (7) これからの食生活	・環境や食糧自給率の問題を考える。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	住生活・食生活などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身に付けようとしているか。	住生活・食生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けているか。	住生活・食生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けているか。	住生活・食生活などについて、生活を充実向上するために必要な知識を総合的に身に付けているか。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得をする。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1編 企業会計の基礎 第2編 資産 第3編 負債 第4編 損益計算 第5編 財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> 資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 		
		2 学 期	第6編 財務諸表の活用 発展学習	<ul style="list-style-type: none"> 財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 	
	3 学 期	発展学習	<ul style="list-style-type: none"> 日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 企業の経営者や社会人としての倫理観等を身に付ける。 課題研究報告書を作成し、発表する。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付けるとともに、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解している。	
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)	ビジネス文書実務検定模擬試験問題集(実教出版)				
授業の概要	1 ビジネスの諸活動における情報伝達手段としての文書の重要性を理解するとともに、情報を効果的に伝える文書を作成し、発信する能力と態度を身に付ける。 2 職業資格の取得について研究し、これまで学習した知識・理解の習得を確認しながら、上級資格取得を目指す。				
授業の目標	マルチメディアを活用してビジネス情報を創造的に表現し、分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得する。また、情報通信ネットワークやソフトウェアを活用したプレゼンテーションなどにより、ビジネスにおける総合的な情報発信能力を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	(1) オリエンテーション (2) 形式別演習 (全商ビジネス文書検定) ① 速度 ② ビジネス文書 ③ 筆記 ④ 検定問題演習	・情報を効果的に伝える文書を作成する。 ・分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得する。 ・時間内に正しく正確な文字入力ができているか確認する。 ・手引きの記入を毎時確実にこなせる。 ・一学期を振り返り今後につなげる。		
	2 学期	(3) マルチメディアの活用 ① 静止画像の莉字 ② 動画像の利用 ③ 音声の利用 ④ 情報の統合	・作表問題についての解説を行い、理解させる。 ・各種機能や作表の内容について説明し学習する。 ・二学期の報告書を作成し、報告させ、生徒に発表させる。 生徒の相互間の自己評価を行わせる。		
	3 学期	(4) プレゼンテーション ① 口頭表現 ② 文章表現 ③ ソフトウェアの利用	・課題研究報告書を作成し、発表させる。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	通信文書の仕組みについて学習し、関心を持ち主体的に取り組んでいるか。	文書の構成を様々な角度から考察し、それぞれに見合った処理が判断できるか。	文書作成が時間内に正しく行われ、学習した内容が適切に行われているか。	マルチメディアと関連づけた処理作成について基礎・基本的な知識が身につけているか。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	総合実践	単位数	2
学年	3年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	総合実践 一企業取引を学ぶー 三訂版(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	<p>1 これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを体験的に学習する。</p> <p>2 ビジネス活動に必要な知識・技術を、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。</p>				
授業の目標	<p>1 ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。</p> <p>2 ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。</p>				
年間 学習 計画		学習内容(単元・項目)	学習目標		
	1 学期	<p>第1編 基礎編</p> <p>第1章 総合実践の学習</p> <p>第2章 ビジネスマナー</p> <p>第3章 ビジネス文書の作成</p> <p>第2編 実践編</p> <p>第1章 模擬取引の学習</p> <p>第2章 模擬取引</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・社会人としての心得、基本的なマナー、応対時のマナー、電話による応対を理解する。 ・ビジネス文書の役割と重要性、ビジネス文書作成の基本、通信文書、封筒の書き方、社交文書の作成、ビジネス文書の管理、帳票を理解する。 ・卸売商の開始業務、経営計画、売買業務に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
	2 学期	第2章 模擬取引	<ul style="list-style-type: none"> ・卸売商の売買業務に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 ・月末業務に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
	3 学期	第2章 模擬取引	<ul style="list-style-type: none"> ・期末業務に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができるか。 ・ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に気をつけながら行動することができるか。 ・取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解しているか。 ・取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入、コンピュータを利用した帳票作成ができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記帳に必要な仕訳を理解しているか。 ・諸帳簿・諸表の作成ができるか。帳簿に基づき、財務諸表の作成ができるか。 	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ビジネス実務	単位数	2
学年	3年	類型	情報ビジネス科A類型		
教科書(出版社)	ビジネス実務 新訂版(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	社会人として望ましい心構えやビジネスマナー、オフィス業務についての基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの場面において適切なコミュニケーションを取ることでできる力を育てる。				
授業の目標	1 ロールプレイングを通して、ビジネスマナーやルールを身に付ける。 2 ビジネスの場で生かされるコミュニケーションの能力や技法を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 企業の組織と人間関係 第2章 ビジネスマナー	<ul style="list-style-type: none"> 経営組織の各層の役割を説明し、経営組織と意思決定の関係や稟議のしくみについて理解する。 組織の人間関係と仕事がいかに結びついているかを考え、組織の一員として働く際の心構えやルールを理解する。 ビジネスマナーを守ることが人間関係の潤滑油となることを理解する。 名刺交換や受付での対応、お茶の出し方や電話応対などをロールプレイングを通して身に付ける。 それぞれのマナーが人間関係の基礎として大切であることを確認する。 		
	2 学期	第4章 オフィス業務 第5章 税の申告と納付 第3章 ビジネスコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 業務の進行方法に興味を持ち、指示・命令の受け方や業務の進め方について理解する。 それぞれの業務に適したソフトウェアの役割を理解し、その活用が業務の効率化に役立っていることを理解する。 納税の意義や税の種類と体系について理解する。 日常生活とは異なるビジネスコミュニケーションの技能を理解し、効果的な技法を身に付ける。 		
	3 学期	国際化とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 我が国や他国の文化、ビジネスにおける国際化の進展に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。 国際的なビジネスの諸活動における英語によるコミュニケーションの意義や役割について理解する。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や、業務の合理化について関心を持ち、主体的に学習に取り組むとともに、社会人として望ましい心構えや態度を身に付けている。	ビジネスの様々な場面における適切なコミュニケーションの方法やオフィスにおける合理的な業務方法を、基礎的な知識をもとに自ら考え工夫するとともに、その成果を的確に表現できる。	社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身に付け、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションをとることができ、合理的な業務を實踐できる。	ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や適切な方法、オフィス業務について基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスコミュニケーションやオフィス業務の重要性を理解している。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	財務会計Ⅰ	単位数	3
学年	3年	類型	情報ビジネス科A類型		
教科書(出版社)	財務会計Ⅰ 新訂版(東京法令出版)				
副教材(出版社)	完全段階式標準検定簿記問題集会計(東京法令出版)				
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第Ⅱ編 貸借対照表 第3章 資産(流動・固定・繰延) 第6章 負債(流動・固定) 第8章 貸借対照表の作成 第Ⅲ編 損益計算書 第3章 損益計算書の作成	・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学期	第4章 その他の財務諸表 第Ⅳ編 財務諸表活用の基礎 第1章 財務諸表の意義 第2章 財務諸表の見方 発展的な内容 第Ⅴ編 連結財務諸表 第1章 連結財務諸表	・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	3 学期	模擬演習	模擬演習をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付けるとともに、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解している。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	電子商取引	単位数	2
学年	3年	類型	情報ビジネス科A類型		
教科書(出版社)	電子商取引 新訂版(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	各種ソフトウェアを活用し、商取引における情報の処理や活用を実践する。				
授業の目標	1 高度情報社会における企業の役割を理解させる。 2 情報通信ネットワークを活用した商取引の意義を理解させるとともに、それを行うための知識と技術を習得させる。 3 利用者の立場に立ったシステムを構築するため、コンピュータを効果的に活用する能力と態度を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス 第2章 コンテンツの制作 第3章 ウェブデザインと広告・広報	・情報通信技術の発展が、ビジネスの形態や広告・広報活動をどのように変化させてきたかを理解させる。 図形・静止画・動画・音声などのファイル形式やその特徴について理解させる。 ・ウェブデザインの意義や役割について理解させるとともに、デザインの基礎的な知識を習得させる。 ・HTMLの基本的なタグやスタイルシート(CSS)、JavaScriptの利用方法を理解させるとともに、ウェブページ作成ソフトウェアやワープロソフトウェアを利用する方法で、ウェブページを作成する基本的な技法を習得させる。		
	2 学期	第4章 ウェブページの公開	・ウェブページを公開するための手順について理解させるとともに、インターネットの基礎的な知識を習得させる。		
	3 学期	第5章 電子商取引とビジネス	・電子商取引の意義や役割について理解させる。 ・電子商取引サイト開業に必要な手順を理解させるとともに、店舗運営を行うための基礎的な知識を習得させる。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	ビジネスにおける電子商取引の必要性に気づき、商取引に情報通信技術を活用しようとする意欲を持って、電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。	電子商取引システムを構築するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、顧客の立場に立ったデザインに加工する工夫を行うとともに、分かりやすい情報発信ができる。	図形や静止画、動画、音声などのコンテンツを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用および、ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用して電子商取引システムを作成できる。	ビジネスにおける電子商取引の意義や役割を理解するとともに、ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や分析、企画・立案、制作、公開の手法を身につけている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				